科学研究費助成事業 研究成果報告書



平成 27 年 6 月 16 日現在

機関番号: 32689 研究種目:基盤研究(C) 研究期間:2012~2014

課題番号: 24520242

研究課題名(和文)戦後期日本のサークル運動と文学についての発展的研究

研究課題名(英文)Extended research on circle movement and literature in postwar Japan

研究代表者

鳥羽 耕史(Toba, Koji)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号:90346586

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文):戦後期の日本で広く普及していたサークル運動と広い意味での「記録」の運動の実態を明らかにするため、調査・研究を行った。主な成果は、安部公房がラジオドラマやテレビドラマなどで行なっていた実験を広義の「記録」やSFとの関わりの中で再評価したこと、戦後のサークル運動が東アジア、特に中国との関係の中で動いていた実例として、押仁太を中心とする連環画や木版画の運動について調査・考察したことなどである。

研究成果の概要(英文): I have carried out my research in order to clarify the actual situation of the movement of "Kiroku(Reportage/Documentary)" in the broad meaning and the circle movement which was popular in the postwar Japan. The main achievements are: re-evaluation of Abe Kobo's experimentation with radio dramas and TV dramas in the relationship between SF and "Kiroku" in the broad meaning, research on the movement of Renkanga(Lianhuanhua) and Woodcut as a example of the relationship between Japanese circle movement and East Asia, especially mainland China.

研究分野: 日本近代文学、戦後文化運動

キーワード: 安部公房 押仁太 ラジオドラマ テレビドラマ サークル運動 記録 SF 連環画

1.研究開始当初の背景

サークル運動については、思想の科学研究 会や天野正子らが当事者的な検証を行って きた。また近年、国内外の歴史学、社会学、 思想史からの注目が集まり、成田龍一、道場 親信、宇野田尚哉、細見和之、水溜真由美、 山本唯人、近藤真里子、大串潤児、辻智子、 Justin Jesty、Wesley Sasaki-Uemura らが 論じている。文学としても、坪井秀人、佐藤 泉、中谷いずみ、茶園梨加らが論じている他、 Jacques Ranciere が 19 世紀フランス労働 者の詩について論じたものが重要な先行研 究となっている。私は、まず『運動体・安部 公房』(一葉社、2007年)において、戦後の 文学・芸術運動やサークル運動と関わり合い ながら安部公房が政治的にも芸術的にも前 衛的な文学を作り上げていった過程に注目 し、サークル運動を文学的に捉え直す必要性 を見出すに至った。そして、その延長線上の 研究で、1950年代の文化運動のキーワード が「記録」であったことに注目し、『1950 年 代「記録」の時代』(河出書房新社、2010年) において「記録」の観点から 1950 年代のサ ークル運動周辺の成果を概観してマッピン グする作業を行った。本研究ではこれらの成 果を踏まえ、個別のサークル調査と全体の思 想的文学的意味との両面で考察を深めたい。

2.研究の目的

戦後期の日本で広く普及していたサークル運動と広い意味での「記録」の運動について、具体的なサークル誌の発掘・保存や関係者の聞き取りを通じて、その実態を明らかにする。また、サークル運動において中心的なジャンルであり、しばしば共同的な形で制作された詩やルポルタージュなどの文学について、同時代の前衛的な文学・芸術運動や政治運動との関連の中で、新しい読みかえ・位置づけを行う。

現在急速に研究が進んでいる分野である が、その中でも未調査の領域である。鳥羽も 参加した『現代思想 35 巻 17 号臨時増刊 戦 後民衆精神史』(青土社、2007年 12月)に おける京浜工業地帯のサークル誌資料の精 査を契機に『東京南部サークル雑誌集成』(不 二出版、2009年)が出版された他、『ヂンダ レ・カリオン』(不二出版、2008年)『紡績 女子工員生活記録集』(日本図書センター、 2002-2008 年)が既に出版され、『われらの 詩』『詩運動』『山河』も復刻の計画中だが、 今回の調査対象はまだその前の段階である。 いわゆる「へたくそ詩」を含むサークルの文 学から文学史を考える仕事には佐藤泉が先 鞭をつけているが、文壇文学中心的な文学史 を一新するためには、彼女の理論的な考察に 具体性を与える必要がある。先に鳥羽の作成 した「『人民文学』総目次」は文学、歴史学、 社会学などの研究者から大きな反響を得て 『人民文学』の復刻出版につながったが、今 回の全国規模のサークル誌の収集と目録・総 目次作成、そして復刻版やインターネットなどの形での本文の公開は、人文社会系の広い 分野での活用が期待できる。

3.研究の方法

図書館・文学館・文書館および古書店や個人所蔵のサークル誌を収集し、できるだけデジタル化して保存と公開の道を探っていく。あわせてサークル当事者の聞き取り調査を行ってそれも活字化しつつ、サークル運動が持っていた意義やその文学的可能性についての考察を深めていく。

4. 研究成果

雑誌論文 1、2、4、7~10、学会発表 3、4、および図書 1、2、4で安部公房に関わる問題を論じ、雑誌論文 3、5、6、学会発表 1、2、5、6、および図書 5 でサークル運動と広い意味での「記録」と、それに関わる文学者・芸術家の問題、雑誌論文 11 と図書 3 でその他の問題を論じた。

まず安部公房については、雑誌論文1と図書4で全般的な研究状況を整理し、雑誌論文4、8で家族の問題や最初期の問題を扱い、雑誌論文2、7、10でラジオドラマやテレビドラマに関わる問題を論じた。さらに、雑誌論文9、学会発表3、4、および図書1、2で今日的な読み方の可能性について論じた。SFと「記録」に関わる問題、生政治や震災後に関わる問題など、従来の安部研究には見られなかった読み方の可能性が開かれたと言えるだろう。

サークル運動と広い意味での「記録」については、雑誌論文3で桂川寛、5で開高健と吉行淳之介、6で「記録」に関わった芸術、学会発表1で桂ゆき、2で小山いと子とダムサイト論争、5と6で木版画・連環画とサークル運動、および図書5で 現在の会 の達成について論じることができた。サークル運動や「記録」の多彩な局面について、幅広い文学者や芸術家との関わりや、東アジアとの関係の中での動きを確認することができたと言えるだろう。

図書3ではこうした戦後の問題に先立つ戦間期と戦中における傷痍軍人表象を論じ、戦後における文学・映像での表象も確認することで、戦後の状況を準備した戦争の問題を考えることができた。また、上記の研究成果は、学会発表2~4のように国内外での英語発表の形でも発信したが、雑誌論文11においてはそうした経験に基づき、日本文学研究における国際性について論じた。

論文などでの業績以外にも、三人社の協力を得て『ルポルタージュ 日本の証言』の復刻版を刊行し、図書5と併せて刊行できたことの意義は大きい。限られた図書館や文学館でしか閲覧できなかった 現在の会 のルポルタージュとルポルタージュ絵画の達成が明らかになることで、今後の研究の進展が期待できる。三人社では、さらに 現在の会

の機関誌『現在』の復刻版も計画しており、 それに関しても私が解説・解題を書く予定で ある。

また、1950年代のルポルタージュで大きな影響力を持った杉浦明平についても、それに先立つ1941年から1945年の日記を若杉自子、鳥羽耕史編『杉浦明平 暗夜島記1941-1945 戦時下の東京都渥美半島の日記をであり、私が解説を担当する。北海道のであり、私が解説を担当する。北海道でであり、私が解説を担当する。北海道でであり、私が解説を担当する。北海道でであり、私が解説を担当する。北海道でで、100年間である。こうした資料を開いるで、1950年代のサークル運動とルポルタージュについての考察がさらに深められるだろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

〔雑誌論文〕(計11件)

- <u>鳥羽耕史</u>、没後十九年目の安部公房研究、 郷土誌あさひかわ、査読無、53 巻 2 号、 46-47 頁、2012 年
- 2. <u>鳥羽耕史</u>、三島由紀夫と安部公房のボク シング ラジオドラマの実験について、 三島由紀夫研究、査読無、12 号、60-68 頁、2012 年
- 3. <u>鳥羽耕史</u>、桂川寛さんのこと、郷土誌あ さひかわ、査読無、53 巻 3 号、34-35 頁、 2012 年
- 4. <u>鳥羽耕史</u>、安部公房の「天使」と岡本太郎の「電撃」 啓示としての過去の出現、郷土誌あさひかわ、査読無、54巻1号、35-37頁、2013年
- 5. <u>鳥羽耕史</u>、商品としての/商品について の小説 開高健「巨人と玩具」と吉行 淳之介「男と女の子」、敍説、査読無、3 巻9号、2-14頁、2013年
- 6. <u>鳥羽耕史</u>、「実験場 1950s」展レビュー、 繍、査読無、25 号、183-199 頁、2013
- 7. <u>鳥羽耕史</u>、安部公房が描いた 2013 年、 郷土誌あさひかわ、査読無、54 巻 2 号、 34-35 頁、2013 年
- 8. <u>鳥羽耕史</u>、安部公房の父・安部浅吉につ いて、郷土誌あさひかわ、査読無、55 巻 1号、38-40 頁、2014 年
- 9. <u>鳥羽耕史</u>、辺境から Frontier へ The Frontier Within: Essays by Abe Kōbō書 評、JunCture 超域的日本文化研究、査読有、5号、160·162頁、2014年
- 10. <u>鳥羽耕史</u>、安部公房とテレビ―SF と「記録」、AMC JOURNAL (AMC ジャーナル 芸術情報センター活動報告書)、査読無、1巻、142·155 頁、2015 年
- 11. <u>鳥羽耕史</u>、日本研究における国際性とは、 早稲田大学国際日本文学・文化研究所 (WIJLC) News Letter、査読無、7号、

4-4 頁、2015 年

〔学会発表〕(計 6件)

- 1. <u>鳥羽耕史</u>、ルポルタージュ作家・グルメ 作家としての桂ゆき、「桂ゆき - ある寓話 - 」展レクチャー、2013 年 4 月 20 日、 東京都現代美術館(東京都江東区)
- 2. <u>鳥 羽 耕 史</u>、 How the "Truth" Is Sponsored: Koyama Itoko and the Controversy over Dam Site、In Session 25: Bundan Snark Panel of The 17th Asian Studies Conference Japan (ASCJ)、2013 年 6 月 30 日、桜美林大学(東京都町田市)
- 3. <u>鳥羽耕史</u>、From Bataille and Kafka to Abe Kobo: Via Okamoto Taro and the Night Society、In Panel 181 "Biopolitics, Bioscience, and Criticism in Modern Japan: Emerging Ethics after Fukushima" of The Annual Conference of Association for Asian Studies (AAS)、2014 年 3 月 29 日、Philadelphia Marriott, Level 3 · Room 306 (フィラデルフィア(アメリカ合衆国))
- 4. <u>鳥羽耕史</u>、The Future of Literary Studies Inspired by the 1950s: From the Viewpoint of 'Circle Poetry' and Abe Kobo 、 UCLA Trans-Pacific Symposium: A New Horizon of Knowledge after 9.11 and 3.11、2014年5月28日、Charles E. Young Research Library Main Conference Room Los Angeles, CA 90095(ロサンゼルス(アメリカ合衆国))
- 5. <u>鳥羽耕史</u>、木版画・連環画とサークル運動、第8回戦後文化運動合同研究会、2014年8月31日、北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟(W棟)409(北海道札幌市)
- 6. <u>鳥羽耕史</u>、世田谷デザイン学校(特設) 第4講「プロパガンダの図像と手法」「松 本瑠樹コレクション ユートピアを求め て展」関連企画、2014年 11月 15日、 世田谷美術館講義室(東京都世田谷区)

[図書](計 5件)

- 1. 中村明、十重田裕一、宗像和重編、朝倉書店、日本語文章・文体・表現事典(縮刷版)《文学編》小説・詩・短歌・俳句名作の表現[実例]鑑賞、2012年、全408(161, 182)頁
- 2. 堀内正規編、早稲田大学出版部、震災後 に読む文学、2013 年、全 130(10-19)頁
- 3. 石川巧、川口隆行編、ひつじ書房、戦争を 読む、2013年、全260(2-18)頁
- 4. 渡辺三子、田中スエコ編、あさひかわ社、 安部公房を語る 郷土誌「あさひかわ」 の誌面から、2013年、全212(4-5, 162, 169-172, 175-176, 178-181, 189-190, 193-196)頁

5. <u>鳥羽耕史</u>、三人社、『ルポルタージュ 日本の証言』解説・解題 関連参考資料、 2014 年、全 84(1-35)頁

〔その他〕 ホームページ等 http://www.f.waseda.jp/toba/

6.研究組織

(1)研究代表者

鳥羽 耕史(TOBA Koji)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号:90346586